

## 令和7年度 学校関係者評価委員会報告を受けて【重点目標の成果と課題並びに次年度へ向けての取組】

令和7年度の教育活動を振り返り、その成果と課題を明確にするとともに、令和8年度の教育課程編成を行いました。5. 6年児童、保護者や地域の方による学校関係者評価アンケート、1. 2. 3. 4年児童の生活アンケート、本校教職員による自己評価などをもとに教育活動や学校運営の改善方策の見直しを行い、学校関係者評価委員会の皆様から提言をいただきました。アンケート集計結果・学校関係者評価委員会報告につきましては、今後本校ホームページに掲載いたしますのでご確認ください。

### <学校経営ビジョン>

一人一人のよさや可能性を最大限に伸ばし、保護者・地域から信頼される安心、安全な学校  
～活力あふれる・時代の変化に柔軟に対応できる～

### 【重点目標1】確かな学力の育成～「わかる・できる・つかえる」知恵と能力の育成

（教育課程における指導の重点）・児童の学習状況や教科の特性を踏まえ、「せたがや探究的な学び」の推進に向けて「課題発見→自力解決→交流（対話・話し合い）→自己解決」のプロセスを重視した授業を展開し、「できるようになった自分を実感できる喜び」を体得させながら、基礎的・基本的な確かな学力の定着を図る。

### 確かな学力に関わるアンケート結果（小数点以下四捨五入）

アンケート項目	目標肯定	結果肯定	差	E:分からない
<b>児</b> わたしは、学習のめあてが何か理解して授業に参加している。	80%	78%	-2	4%
<b>保</b> 本校は、学習のめあてを明確にした授業を行っている。	70%	77%	+7	11%
<b>児</b> わたしは、問題解決に自力で取り組んでいる。	80%	88%	+8	2%
<b>保</b> 本校は、個々が自力で問題解決を図れるように支援している。	70%	61%	-9	18%
<b>児</b> わたしは、自分の考えをもち、ノートやタブレットに振り返りをまとめている。	80%	69%	-11	4%
<b>保</b> 本校は、自分の考えがもてるように、ノートやタブレットに振り返りなどをまとめさせている。	70%	61%	-9	17%
<b>児</b> わたしは、学びの中で相手と交流（対話や話し合い）している。	80%	79%	-1	5%
<b>保</b> 本校は、学びの中で相手と交流（対話や話し合い）する機会を設けている。	70%	74%	+4	11%
<b>児</b> わたしは、授業中「わかった」「できるようになった」と思う時がある。	80%	82%	+2	4%
<b>保</b> 本校は、授業において「わかる」「できる」につながる指導の工夫をしている。	70%	56%	-14	21%

### <○成果と△課題>

○児童の学習理解が82%となり、授業のめあての確認から振り返る一連の展開が定着してきていることが見て取れる。その中でも既習事項を使って自力解決に向かう姿勢が88%と高い数値となっていることは知識の定着

や学習意欲の向上ともつながっていると感じる。

△保護者項目の5項目中3項目の結果でマイナスの差が出ている。児童の評価との乖離もみられる。

<次年度へ向けての取組>

・学校関係者評価委員会の報告でもご指摘いただいた保護者項目におけるマイナスの差の改善に向けて、授業公開や保護者会、学校便り等で情報提供を行い、項目の回答において「E:分からない」の割合を少しでも減らしていく。また授業力の向上を図る研修は今後も継続していく。

## 【重点目標2】豊かな人間性・社会性の育成～「あいさつ・かかわり・思いやり」の心と態度の育成

(教育課程における指導の重点) ・児童の個別の事情や状況を把握しながら内省を促すような指導を行うとともに、学校生活の様々な場面を通して、思いやりの気持ちを持ち、自ら考え、判断する力を養い、自主的・自立的に生きていく力を育成する。

### 豊かな人間性・社会性に関わるアンケート結果 (小数点以下四捨五入)

アンケート項目	目標肯定	結果肯定	差	E:分からない
見 わたしは、学校のきまりを守って行動している。	80%	80%	±0	3%
保 本校は、子どもたちが学校のきまりを守って行動している。	70%	76%	+6	6%
地 本校の子どもたちは、きまりを守って行動している。	70%	83%	+13	17%
見 わたしは、自分からあいさつしている。	80%	73%	-7	5%
保 本校は、子どもたちが自らあいさつしている。	70%	60%	-10	10%
地 本校の子どもたちは、自らあいさつしている。	70%	72%	+2	6%
見 わたしは、友達や下学年に、思いやりをもって行動している。	80%	81%	+1	5%
保 本校は、子どもたちが友達や下学年に、思いやりをもって行動している。	70%	78%	+8	10%
地 本校の子どもたちは、思いやりをもって行動している。	70%	83%	+13	17%
見 わたしは、まちがえたことをした時は反省し、次に生かそうとしている。	80%	81%	+1	7%
保 本校は、子どもたちがまちがえたことをした時は反省し、次に生かそうとしている。	70%	60%	-10	22%
見 わたしは、いじめられている子がいたら、助けたいと思う。	80%	88%	+8	5%
保 本校は、子どもたちがいじめを許さない気持ちを育てている。	70%	57%	-13	18%

<○成果と△課題>

○友達や下級生に思いやりをもって生活していることが学校内外を問わず見られる。縦割り班での異年齢活動が思いやりの気持ちの醸成にもつながっていると感じる。

△挨拶の項目が児童、保護者ともにマイナスの差がある。コロナ以降、時間もたっており、校内での取り組みの工夫が必要である。

<次年度へ向けての取組>

・ふれあい挨拶デーや挨拶週間での取り組み以外にも日常的に挨拶の輪が広がるように教員、児童双方から課題に対する目標を立てて取り組んでいく。生活指導上の問題に関しては、未然防止に努めるとともに、問題の早期発見、早期解決においては学年・組織で対応し、保護者との連携を図っていく。

## 【重点目標3】健康で安心、安全な学校生活と体力の向上～「あんぜん・あんしん・あかるい生活」を営む態度と能力の育成

（教育課程における指導の重点）・「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」結果を基に体力向上全体計画を作成し、体育授業の改善を積極的に図るとともに長なわチャレンジやマラソントライムなどの体育的活動を実施して、運動する楽しさを味わわせ、生涯にわたりスポーツに親しむ態度を育成する。

・「安全教育プログラム」に基づき、「生命（いのち）の安全教育」を活用し、様々な災害の状況を想定しながら指導内容が明確な年間指導計画を作成し、月1回避難訓練を実施する。防災教育の充実を通して、自ら危険を予測し、回避する能力を養う。

#### 健康で安心、安全な学校生活と体力の向上に関わるアンケート結果（小数点以下四捨五入）

アンケート項目	目標肯定	結果肯定	差	E:分からない
児 わたしは、運動や外遊びなど体力づくりに取り組んでいる。	80%	77%	-3	2%
保 本校は、縄跳びやマラソンなど体力づくりにすすんで取り組んでいる。	70%	71%	+1	9%
地 本校は、スポーツ祭やマラソン大会などの体力向上にすすんで取り組んでいる。	70%	100%	+30	0%
児 わたしは、「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけている。	80%	66%	-14	4%
保 本校は、「早寝・早起き・朝ごはん」などの健康推進にすすんで取り組んでいる。	70%	83%	+13	3%
地 本校は、学校保健委員会などの健康教育にすすんで取り組んでいる。	70%	83%	+13	17%
児 わたしは、避難訓練に真剣に参加している。	80%	92%	+12	2%
保 本校は、避難訓練や防災授業などの安全教育にすすんで取り組んでいる。	70%	92%	+22	2%
地 本校は、防災授業などの安全教育にすすんで取り組んでいる。	70%	94%	+24	6%

#### <○成果と△課題>

○防災に関する意識の向上は6月の防災デーや7月のサバイバルキャンプ等の親子参加での取り組みもあり、プラスの高い差となった。

△生活習慣に課題が見られる。生活リズムが整わない理由を考えていく必要がある。

#### <次年度へ向けての取組>

・学校関係者評価委員会の報告の中にある規則正しい生活の改善については学校と家庭で情報共有しながら活動に取り組んでいく。また、運動する機会が様々な理由（猛暑、ICT 端末の普及等）で減少する中、健康的な生活リズムの獲得を保健指導の場から啓発していく。体力向上の取り組みについても年間計画を見直し、実施内容や時期について再検討する。

#### 【重点目標4】意欲的な態度や主体性の育成～「すき・たのしい・もっとしたい」ことが見つかる教育

（教育課程における指導の重点）・体験的な学習を基に、児童自らが興味や関心をもった学習課題を設定・追究し、解決・発表できる力を育む。また、学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

#### 意欲的な態度や主体性に関わるアンケート結果（小数点以下四捨五入）

アンケート項目	目標肯定	結果肯定	差異	E:分からない
児 わたしは、学校生活が楽しいと感じる。	80%	82%	+2	3%
保 本校は、子どもたちにとって楽しい環境である。	70%	81%	+11	6%
地 本校は、子どもたちにとって楽しい環境である。	70%	89%	+19	11%

児	わたしは、好きなこと、やりたいことがある。	80%	94%	+14	1%
保	本校は、子どもたちにとって好きなこと、やりたいことが見つけられる環境である。	70%	62%	-8	13%
地	本校は、子どもたちにとって好きなこと、やりたいことが見つけられる環境である。	70%	72%	+2	28%
児	わたしは、物事は最後まであきらめずに取り組んでいる。	80%	82%	+2	3%
保	本校は、子どもたちにとってあきらめない力を身に付けられる環境である。	70%	50%	-20	21%

<○成果と△課題>

○本校が児童、保護者、地域の方々にとって、楽しい学校となっていること、また子どもたちにとって好きなことを追求できる環境であることが見て取れる。

△あきらめずに取り組む力の育成については保護者目線からの課題が大きい。

<次年度へ向けての取組>

・本校が魅力ある学校で居続けるために、校長のリーダーシップの下で学校経営方針の具現化に向けた取り組みをチーム太子堂で今後も充実させていく。あきらめずに取り組む力の育成は、学習、生活両面の個別最適な学びについて、研修等を通して指導力の質を高めるとともに、家庭との連携も図りながら情報共有していく。

【その他】

学校生活全般に関わるアンケート結果（小数点以下四捨五入）

アンケート項目	目標肯定	結果肯定	差異	E:分からない	
児	わたしは、先生たちに相談できる。	80%	70%	-10	7%
保	本校の先生たちは、子どもたちにとって相談しやすいと思う。	70%	64%	-6	13%
児	わたしは、タブレットのルールを守って使っている。	80%	84%	+4	6%
保	本校の子どもたちは、タブレットのルールを守って使っている。	70%	45%	-25	15%

<○成果と△課題>

○タブレットのルールを守って使用している意識が児童は高い。

△保護者から見ると野放図にタブレットを使っているように見える。

<次年度へ向けての取組>

・学校関係者評価委員会の報告でも強く改善の必要性を求められていることから、タブレット使用のルールについて見直しを行い、6年間を通じて計画的に指導する。その際は学校・家庭とで同じ歩調で取り組む。

結び

今年度は、学校経営方針に示されている4つの重点目標に基づく学校評価にリニューアルしての初めての検証となりました。この新たな学校評価により、学力向上、豊かな社会性・人間性の育成、安心安全と体力向上、自己実現を図る教育活動の推進という本校の方向性が、教職員、保護者・地域の方々と共有しやすくなり、取組の成果や課題がこれまで以上に整理して把握できたことは大きな成果でした。一方で、重点目標を日々の教育活動へより深く落とし込むための教職員の共通理解の場や保護者・地域の方々への啓発機会の充実については今後改善すべき課題として明らかになりました。これらの成果と課題を踏まえ、次年度は評価の質を高めるために、持続発展的な学校改善に努めてまいります。今後とも、本校の教育活動への御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

（副校長 梅田 正弥）